



7月の生活目標

- ◆ **そうじを しっかりやろう**
 - ・必要のないおしゃべりはしない。
 - ・決められた時間まで、きれいにする。
 - ・そうじ道具は、せいりせいとんして かたづける。



七夕集会 = 願いごとを実現するには…

7月7日(金)の業前時間に、集会委員会が主催する「七夕集会」が、以下のプログラムで行われました。

一人一人が自分の願いごとを短冊に書いて、各学級ごとに紙に貼って掲示しました。また、各学級の願いごとも、代表児童が発表しました。

- | | |
|--|--|
| ① はじめの言葉 (箕口レ口④) | 【司会進行：水口日口⑥】 |
| ② 七夕に関する劇 | (赤口季口⑥ 富口こ口ろ⑥ 金口恋口⑥
長口川口磨⑤ 富口千口⑤ = 語り 水口日口⑤ = 語り
高口朱口羽④ 箕口レ口④ 小口弘口先生 = 特別出演) |
| ③ 七夕〇×クイズ (赤口季口⑥ 長口川口磨⑤ 渡口基口④) | |
| ④ 各学級の願いの発表 | (木口光口① 田口結口② 図口田口平③ 綾口翠口④
村口佳口琉⑤ 大口廉口⑥
那口光◎・岩口星口◎・山口直口◎) |
| ⑤ 全校の歌『たなばたさま』(指揮：鈴木爽口⑥ 伴奏：村口香口⑤・落口涼⑤) | |
| ⑥ 校長先生のお話 | |
| ⑦ 終わりの言葉 (高口朱口羽④) | |

- | | |
|----|---|
| 学級 | 【1の1】 げんき なかよし がんばるくらすに なりますように |
| の | 【2の1】 なかよく 元気にあそび やさしくたすけ合えるクラスになれますように |
| 願 | 【3の1】 クラスが笑顔でつつまれます |
| い | 【4の1】 夢をかなえるために 笑顔でがんばるクラスになれますように |
| ご | 【5の1】 いじめのない 笑顔たくさん やさしい五年一組になれますように |
| と | 【6の1】 けじめをつけて 笑顔があふれる 平和なクラスになれますように |
| | 【つくし】 一年間 元気に 楽しく すごせますように |



【七夕に関する劇】



【七夕〇×クイズ】



【学級の願いごとの発表】

七夕集会における校長の話

皆さん、改めまして、おはようございます。
昨年の七夕集会<で、みなで歌った『たなばたさま』の歌詞に関する話をしましたが、もう1年経ちましたので、少し話を付け足して復習してみたいと思います。「♪五色の短冊 私が書いた お星様キラキラ 空から見てる♪」という歌を歌いましたが…



【♪たなばたさま♪】

◆ 1番目の話は、「五色（ごしき）の短冊」の「五色」についてです。

「五色」というのは、「5種類の色＝緑・赤・黄・白・紫」のことで、これは今から2300年くらい前の中国の五行説（ごぎょうせつ）という考え方がもとになっているそうです。「五行説」というのは、私たち人間がより良く生きていくために必要な「5つの気持ち」を教えてくれています。

1つ目の「緑」は、自分の人柄を高めようとする気持ちで、「仁」といいます。
2つ目の「赤」は、家族や祖先に感謝する気持ちで、「礼」といいます。
3つ目の「黄」は、友達や知り合いを大切にすることを大切に、「信」といいます。
4つ目の「白」は、きまりや義務を守る気持ちで、「義」といいます。
5つ目の「紫」は、勉強しようとする気持ちで、「智」といいます。
したがって、五色の短冊に自分の願いごとを書くようになった頃には、この5つの気持ちに関する願いごとを、具体的に詳しく書くのが良いとされていたそうです。



◆ 2番目の話は「五色の短冊」の「短冊」についてです。
なぜ、短冊に願いごとを書くようになったのかという話です。
元々は中国の行事であった七夕が、奈良時代（今から1300年くらい前）に日本に伝わってきた頃には、織姫のように機織りや裁縫が上手になることを願って、機織りや裁縫になくはない「糸」を飾っていたそうです。願いごとを書いた短冊を飾るという習慣はありませんでした。

「機織り」というのは、糸から布をつくることで、「裁縫」というのは、布を切って、針と糸で縫い合わせて、服などを作ることです。
ところが、室町時代（今から700年くらい前）になると、字が上手になることを願って、短冊に和歌（五・七・五・七・七の歌）を書いて飾るようになりました。
そして、これが江戸時代になると、「短冊」に自分の願いごとを書くのが一般庶民の間に広まっていき、それが現在まで続いているということです。
いずれにしても、七夕というのは、私たちが何かをお願いして実現させたいという気持ちと結び付いて、昔からずっと続いてきている行事ということになります。



◆ 3番目の話は、「お星様キラキラ 空から見てる」についてです。

今年も、皆さんは短冊にいろいろな願いごとを書いたと思いますが、願いに「欲しい物」を書いた人は別として、「自分の夢や目標、大人になって就きたい職業」などを書いた人は、書いただけで、それを実現できないなんてことは、絶対に有り得ないと思ってください。書いただけで願いごとが叶ってしまったら、こんなに簡単でいいことはありませんよね。
織姫と彦星は、結婚してからというもの毎日遊んでばかりで、まったく仕事をしなくなったので、織姫のお父さんが怒って、二人を離れ離れにしまいました。でも、二人が織姫のお父さんの約束（毎日一生懸命仕事を頑張るという約束）を守ったので、「会って一緒に過ごしたい」という願いごとが叶うようになりました。
皆さんは、この七夕伝説から何を学んだらよいのでしょうか？ それは、「願いごとというのは、やるべきことを毎日きちんと続けていかなければ、絶対に叶わない」ということです。



【個人の願いごとの掲示】

お星様はキラキラと目を光らせて、空から何をみているのでしょうか？皆さんが、自分の願いごとを実現するために、やるべきことをきちんとやっているかどうかを厳しく見ていると思います。毎日の地道な努力の積み重ねのないところに、願いごとの実現、夢や目標の達成はありません。

◆ 最後になりますが、今日の七夕集会を行うにあたって、準備・リハーサル・今朝の運営と、たいへん頑張ってくれた集會委員会の皆さんに、お礼を言いたいです。ありがとうございました。終わります。

